（第3種郵便物認可）　中日新聞

# 田原の最大規模メガソーラー

# 最高水準 再生エネ起工

国内最大規模の大規模太陽光発電所（メガソーラー）の起工式が七日、愛知県田原市緑が浜で開かれた。三井化学が保有する八十二万平方㍍の遊休地に、出力五万㌔㍗の太陽光発電設備と、同二千㌔㍗の風力発電設備三基を建設。二〇一四年十月の運転開始を目指す。

太陽光と風力を合わせた発電量は、年間六千七百五十万㌔㍗時を想定。田原市の総世帯数の約九割に当たる一万九千世帯分の使用電力量に相当する。再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度に基づき、中部電力に売電する。

事業に参画するのは、三井化学のほかに三井物産、東亜合成、東芝、東レ、三井造船と中電子会社のシーテック（名古屋市）。シーテックは完成後に設備の保守管理を担う。

起工式には三井化学の田中稔一社長ら七社の代表や県、市の関係者ら約百人が出席した。田中社長は「田原市は日照時間や風速が日本の最高水準。事業を成功させて再生可能エネルギーの推進に貢献したい」と話した。

三井化学が建設計画を公表した昨年十月時点では今年六月に着工する予定だったが、電気の買い取り価格の決定が見込みより遅れたため、工期がずれ込んだ。近く土地の造成工事に入り、来年六月ごろから太陽光パネルの据え付けを始める。パネル（縦二㍍、幅一㍍）の設置数は二十一万五千枚と大がかりな工事となる。

運転開始後は季節や時間帯、天候による発電量の違いなども分析しノウハウを蓄積する。田中社長は「太陽光発電には発電効率や耐用年数などが課題。技術革新をテーマの一つにしたい」と意気込みを語った。

国内最大級となる太陽光・風力発電所の建設予定地＝愛知県田原市で